

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	スポーツ眼科学		分野	専門基礎分野	
				教育内容	視覚機能の基礎と検査機器	
	開講期	2年 前期	1単位 15時間		主たる授業方法	講義, 演習
担当者	吉本洋平 (視能訓練士, 認定専任教員)			専任兼任の別	専任	
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略) 臨床にて視能検査に従事			
授業概要	スポーツ眼科について学び、眼の安全を確保できる環境整備, エビデンスのある検査による視機能評価, 最適なパフォーマンスが発揮できる視力矯正, 眼外傷後の視機能や競技能力の回復について学ぶ。					
到達目標						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. スポーツに必要な視機能 2. 眼外傷と予防 3. 視覚障がい者スポーツ 4. 静止視力と動体視力 5. 視野と動体視力 6. 視機能評価① 7. 視機能評価② 8. 単位認定試験 					
成績評価の方法	筆記試験にて 60 点以上で合格とする					
テキスト	現代の眼科学／改定第 13 版 (金原出版), 視能学／第 3 版 (文光堂), 視能検査学／第 2 版 (医学書院)					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	眼薬理学		分野	専門基礎分野	
				教育内容	視覚機能の基礎と検査機器	
	開講期	2年 前期	2単位 30時間		主たる授業方法	講義
担当者	佐藤千鶴（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略) 視能訓練士として病院での臨床経験を持つ。			
授業概要	薬物の作用機序・効果・副作用について学び、眼科の検査・診断・治療に用いられる薬剤について理解する。					
到達目標	眼科検査に用いる主要な薬物について理解し説明できる。 眼の検査、治療に用いる薬物の副作用について理解し説明できる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 薬理学を学ぶにあたって 2. 薬理学の基礎知識 3. 薬理学の基礎知識 4. 点眼薬の基礎 5. 感染症治療薬（抗菌薬） 6. 感染症治療薬（抗真菌薬） 7. 感染症治療薬（抗ヘルペス薬） 8. 中間まとめ 9. アレルギー治療薬 10. 角膜治療薬・ドライアイ治療薬 11. 炎症治療薬 12. 緑内障治療薬 13. 白内障治療薬、散瞳薬、点眼麻酔薬 14. 催眠薬、耐性と院内感染 15. 単位認定試験 					
成績評価の方法	単位認定試験（筆記）を実施し、60点以上を合格とする。					
テキスト	視能学／第3版（文光堂）、点眼薬クリニカルブック／第2版（金原出版）					
参考図書	系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進[3]薬理学（医学書院）					
備考・特色						

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	情報処理工学		分野	専門基礎分野	
				教育内容	視覚機能の基礎と検査機器	
	開講期	2年 前期	1単位 30時間		主たる授業方法	演習
担当者	佐藤千鶴（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略） 視能訓練士として病院での臨床経験を持つ。			
授業概要	3年次の臨地実習，卒業研究に備えてパソコンの操作方法を学ぶ。					
到達目標	コンピュータの基本知識を学び，Word，Excel，Power Point の基本的な操作を習得し，使いこなせるようになる。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. コンピュータの基礎知識，情報セキュリティ，電子メール 2. Word ①（基礎） 3. Word ②（応用） 4. Excel ①（基礎） 5. Excel ②（基礎） 6. Excel ③（応用） 7. Power Point ① 8. Power Point ② 9. グループワーク ① 10. グループワーク ② 11. 課題 ① 12. 課題 ② 13. 課題 ③ 14. 発表 15. 発表 					
成績評価の方法	レポートの提出を成績評価とする。					
テキスト						
参考図書	看護のための情報リテラシー（東京図書）					
備考・特色	各自パソコンと USB を準備する。 学生による発表あり。					

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	基礎視能矯正学Ⅲ		分野	専門	
				教育内容	基礎視能矯正学	
	開講期	2年 前期	1単位 15時間		主たる授業方法	講義
担当者	正 鮎美 (視能訓練士)			専任兼任の別	専任	
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	近見反応や両眼離反運動, AC/A 比について理解する。					
到達目標	① 近見反応について説明ができる。 ② 両眼離反運動について説明ができる。 ③ AC/A 比測定に必要な条件を説明でき, データから AC/A 比を算出できる。					
授業計画	1. 近見反応とは 2. 両眼離反運動 3. 両眼離反運動 4. AC/A 比 5. AC/A 比 6. AC/A 比 7. AC/A 比 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験 (筆記) 100 点					
テキスト	視能学 / 第 3 版 (文光堂), 視能訓練学 / 第 2 版 (医学書院)					
参考図書						
備考・特色						

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	生理光学演習Ⅲ		分野	専門
				教育内容	基礎視能矯正学
	開講期	2年 前期	1単位 30時間	主たる授業方法	演習
担当者	田野上 恭子（視能訓練士）			専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）		
授業概要	自覚的屈折検査の基本的な方法を用いながら、様々な屈折異常の矯正技術を習得する。				
到達目標	様々な屈折異常に対する実践的な矯正技術を修得する。 他覚的屈折値が無くても正確な自覚的屈折値を測定することができる。				
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 自覚的屈折検査：屈折矯正をより早く正確に行うための手順（その①） 2. 自覚的屈折検査：屈折矯正をより早く正確に行うための手順（その②） 3. 《演習》視力値を参考にしない矯正方法、遠視症例の演習課題 4. 《演習》屈折矯正：球面レンズの検出① 5. 《演習》屈折矯正：球面レンズの検出② 6. 《演習》屈折矯正：球面レンズの検出③ 7. 《演習》屈折矯正：球面レンズの検出④ 8. 《演習》屈折矯正：乱視の矯正（放射線乱視表①） 9. 《演習》屈折矯正：乱視の矯正（放射線乱視表②） 10. 《演習》屈折矯正：乱視の矯正（放射線乱視表③） 11. 自覚的屈折検査：屈折矯正をより早く正確に行うための手順（その③） 12. 《演習》屈折矯正：乱視の矯正（クロスシリンダー①） 13. 《演習》屈折矯正：乱視の矯正（クロスシリンダー②） 14. 《演習》屈折矯正：乱視の矯正（クロスシリンダー③） 15. 《演習》屈折矯正：様々な屈折度への対応 				
成績評価の方法	ルーブリック評価（毎時間、技術確認を行い、その到達度によって評価する）				
テキスト	理解を深めよう 視力検査・屈折検査（金原出版）				
参考図書					
備考・特色					

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	屈折矯正 I		分野	専門	
				教育内容	基礎視能矯正学	
	開講期	2年 前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	講義, 演習
担当者	田野上 恭子 (視能訓練士)			専任兼任の別	専任	
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	眼鏡処方検査の基本的な考え方と検査に必要な知識を習得する。					
到達目標	成人と小児に対する眼鏡処方検査の基本的な方法を理解する。 プリズム眼鏡の適応を理解する。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 屈折矯正の概念 2. 処方検査に必要な知識 (レンズとフレーム) 3. 眼鏡処方検査 (成人眼鏡調整の基本的検査) 4. 眼鏡処方検査 (成人眼鏡調整の基本的検査) 5. 眼鏡処方検査 (成人眼鏡調整の基本的検査) 6. 眼鏡処方検査 (眼疾患の眼鏡処方検査) 7. 眼鏡処方検査 (眼疾患の眼鏡処方検査) 8. 前半まとめ 9. 眼鏡処方検査 (小児の眼鏡) 10. 眼鏡処方検査 (小児の眼鏡) 11. 眼鏡処方検査 (プリズム眼鏡) 12. 後半まとめ, 演習の導入, 実施計画 13. 《演習》サイプレジン点眼による近用眼鏡処方, 老視の体験〔表裏〕 14. 演習の振り返り, まとめ 15. 単位認定試験 					
成績評価の方法	単位認定試験					
テキスト	屈折異常とその矯正／改定第 7 版 (金原出版), 理解を深めよう 視力検査・屈折検査 (金原出版), 光学・眼鏡／第 2 版 (医学書院), 視能訓練学／第 2 版 (医学書院), ロービジョンケア (医学書院), 視能学／第 3 版 (文光堂)					
参考図書						
備考・特色						

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視覚生理学演習Ⅲ		分野	専門分野	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2年 前期	1単位 30時間		主たる授業方法	演習
担当者	御幡美紀（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略） 病院に勤務し眼科一般検査の経験を有している			
授業概要	視野検査演習					
到達目標	異常視野の測定					
授業計画	1. 正常視野測定 演習 2. 〃 3. 〃 4. 〃 5. 〃 6. 異常視野測定の検討 講義 7. 〃 8. 異常視野測定 演習（網膜色素変性症） 9. 〃 （下垂体腫瘍） 10. 〃 （緑内障） 11. 〃 （緑内障 2） 12. 〃 （視神経炎） 13. 〃 （虚血性視神経症） 14. 実技試験 15. 〃					
成績評価の方法	実技試験にて技術確認を行い、その到達度が 60 点以上で合格とする					
テキスト	理解を深めよう 視野検査／第 1 版補訂版（金原出版）					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能検査学Ⅱ		分野	専門分野	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2年 前期	1単位 15時間		主たる授業方法	講義
担当者	吉本洋平（視能訓練士，認定専任教員）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略） 臨床にて視能検査に従事			
授業概要	眼科一般検査を履修する					
到達目標	1) 視覚検査機器の基本的知識の習得 2) 使用方法 3) 結果判定 4) 対象と目的を理解する					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. Aモード，Bモード，UBM，眼軸長測定とIOL計算 2. カラー眼底写真撮影（散瞳），蛍光眼底造影検査（FA,IA），自発蛍光（FAF） 3. 光干渉断層計 OCT（後眼部）と OCT アンギオグラフィ 4. ERG 5. EOG 6. VEP 7. ENG, EMG 8. 単位認定試験 					
成績評価の方法	筆記試験にて60点以上で合格とする					
テキスト	現代の眼科学／改定第13版（金原出版），視能学／第3版（文光堂），視能検査学／第2版（医学書院）					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能検査学演習 II		分野	専門分野	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2年 前期	1 単位 30 時間	主たる授業方法	演習	
担当者	吉本洋平（視能訓練士，認定専任教員）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略） 臨床にて視能検査に従事			
授業概要	眼科一般検査を履修する 眼底写真撮影，OCT 撮影，電気生理検査，眼軸長測定					
到達目標	視能検査学 II で履修した技術を習得する					
授業計画	1. 演習① 眼底写真撮影，OCT，眼軸長測定 2. 〃 3. 演習② 〃 4. 〃 5. 演習③ 〃 6. 〃 7. 演習④ 電気生理検査 ERG/EOG 8. 〃 9. 演習⑤ 〃 10. 〃 11. 演習⑥ 電気生理検査 VEP/ENG 12. 〃 13. 演習⑦ 〃 14. 〃 15. 試験					
成績評価の方法	試験にて 60 点以上で合格とする					
テキスト	現代の眼科学／改定第 13 版（金原出版），視能学／第 3 版（文光堂），視能検査学／第 2 版（医学書院）					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能矯正学 I		分野	専門分野	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2 年 前期	1 単位 15 時間		主たる授業方法	講義
担当者	大塚美和子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	両眼視機能の各検査の特徴を把握し、症例に合わせた検査が選択できるようになるとともに、各検査結果の判定が出来るようにする。					
到達目標	両眼視機能の各検査の特徴を理解し各検査の総合判定ができるようにする。					
授業計画	1. 両眼視機能検査の目的と適応 2. 立体視検査の図形の原理,立体視検査の長所短所と注意点 3. 不等像視の検査 4. 網膜対応検査の項目と注意点 5. 網膜対応検査（Red filter test） 6. 網膜対応検査（Bagolini S-G Test・Worth 4 dot test） 7. 網膜対応検査（After image test・残像ひきとり試験・両眼 Visuscope test） 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	筆記試験にて 60 点以上で合格とする					
テキスト	視能訓練学／第 2 版（医学書院）、視能検査学／第 2 版（医学書院）、理解を深めよう 視力検査・屈折検査（金原出版）、視能学／第 3 版（金原出版）					
参考図書	視能学 増補版（文光堂）、視能矯正学（金原出版）、眼科検査法ハンドブック（医学書院）、視能矯正マニュアル（メディカル葵出版）					
備考・特色						

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能矯正学Ⅱ		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2年 前期	1単位 15時間		主たる授業方法	講義
担当者	田野上 恭子（視能訓練士）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	斜視の入力および出力系検査の目的や検査方法を習得する。					
到達目標	各検査の目的や検査方法を理解する。					
授業計画	1. 斜視検査 概論, 固視検査 2. 眼位 定性検査 3. 眼位 定性検査 4. 眼位 定量検査 5. 眼球運動 定性検査 6. 頭位検査 7. 演習, まとめ 8. 単位認定試験					
成績評価の方法	単位認定試験					
テキスト	視能訓練学／第2版（医学書院），視能検査学／第2版（医学書院），視能学／第3版（文光堂）					
参考図書						
備考・特色						

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能矯正学演習 I		分野	専門分野	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2年 前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	大塚美和子（視能訓練士）				専任兼任の別	専任
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略）			
授業概要	症例に合わせた検査が選択できるようになるとともに、各検査結果の総合判定ができるようになる					
到達目標	両眼視機能の各検査の特徴を理解し検査の技術向上を目指す					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 立体視,不等像視検査 2. 立体視,不等像視検査 3. 網膜対応検査（Red filter test） 4. 演習 5. 演習 6. 網膜対応検査（Bagolini S-G Test・Worth 4 dot test） 7. 網膜対応検査（After image test・残像ひきとり試験・両眼 Visuscope test） 8. 演習 9. 演習 10. 演習（網膜対応検査（異常眼）） 11. 演習（網膜対応検査（異常眼）） 12. 演習（網膜対応検査（異常眼）） 13. 演習（実技確認） 14. 演習（実技確認） 15. 単位認定試験 					
成績評価の方法	単位認定試 4 割、実技試験 3 割、実習取り組み方 2 割、レポート提出 1 割で計 100 点を満点とし、60 点以上を合格とする。					
テキスト	視能訓練学／第 2 版（医学書院）、視能検査学／第 2 版（医学書院）、理解を深めよう 視力検査・屈折検査（金原出版）、視能学／第 3 版（金原出版）					
参考図書	視能学／増補版（文光堂）、視能矯正学／改訂第 3 版（金原出版）、眼科検査法ハンドブック（医学書院）、視能矯正マニュアル（メディカル葵出版）					
備考・特色						

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能矯正学演習 II		分野	専門	
				教育内容	視能検査学	
	開講期	2 年 前期	1 単位 30 時間		主たる授業方法	演習
担当者	田野上 恭子 (視能訓練士)			専任兼任の別	専任	
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	斜視の入力および出力系検査の方法と検査技術を習得する。					
到達目標	各検査の検査技術を修得する。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none">1. 固視検査の実際2. 《演習》固視・眼位検査3. 〃4. 《演習》固視・眼位検査／ルーブリック評価 (遮閉試験)5. 〃6. 眼位 定量検査の実際 (Hirschberg test, Krimsky test)7. 眼位 定量検査の実際 (prism cover test)8. 眼位 定量検査の実際 (Maddox 正切尺 & 小杆)9. 眼位 定量検査の実際 (回旋偏位)10. 《演習》眼位検査 (定性および定量, AC/A 比も)11. 〃12. 《演習》眼位検査 (定性および定量, AC/A 比も)13. 〃14. 《演習》固視・眼位・眼球運動検査 (水平の眼位異常を想定) ／ルーブリック評価 (プリズム遮閉試験)15. 〃					
成績評価の方法	技術試験 (ルーブリック)					
テキスト	視能訓練学／第 2 版 (医学書院), 視能検査学／第 2 版 (医学書院), 視能学／第 3 版 (文光堂)					
参考図書						
備考・特色						

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	視能障害学Ⅱ		分野	専門分野	
				教育内容	視能障害学	
	開講期	2年 前期	2単位 30時間		主たる授業方法	講義
担当者	吉本洋平（視能訓練士，認定専任教員）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	（実務経験の概略） 臨床にて視能検査に従事			
授業概要	主要眼疾患の基本的知識					
到達目標	視能障害の予防と治療の観点から，種々の障害を理解する。					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 復習① 2. 水晶体の解剖生理 3. 〃 の病態と検査・治療 4. 視神経の解剖生理 5. 〃 の病態と検査・治療 6. 全身疾患と眼、免疫と眼 7. 身体表現性障害 8. 中間試験 9. 復習② 10. 視路の解剖生理 11. 〃 の病態と検査・治療① 12. 瞳孔の解剖生理 13. 〃 の病態と検査・治療① 14. 〃 の病態と検査・治療② 15. 単位認定試験 					
成績評価の方法	中間テストと単位認定試験にて 60 点以上で合格とする					
テキスト	現代の眼科学／改定第 13 版（金原出版），視能学／第 3 版（文光堂），視能検査学／第 2 版（医学書院）					
参考図書	随時紹介する					
備考・特色						

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	弱視視能訓練学		分野	専門分野	
				教育内容	視能訓練学	
	開講期	2年 前期	2単位 30時間		主たる授業方法	講義
担当者	大塚美和子（視能訓練士）			専任兼任の別	専任	
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	弱視についての基本的知識の復習をふまえながら各病態の治療法を学び理解する					
到達目標	弱視の病態から治療法を選択でき、経過観察時の必要な検査が考えられるようになる					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1. 弱視総論（弱視の各病態の復習） 2. 弱視治療（目標から3原則） 3. 光学的視能矯正（光学的治療の概念、光学的矯正と関連事項） 4. 光学的視能矯正（屈折検査の注意点など） 5. 光学的視能矯正（ペナリゼーション・逆プリズム法） 6. 光学的視能矯正（アトロピン療法、Moore-Johnson法、逆プリズム法） 7. 中間まとめ 8. 能動的視能矯正（遮閉法の原理・目的・種類） 9. 能動的視能矯正（遮閉法の分類・副作用・禁忌） 10. 能動的視能矯正（弱視視能訓練） 11. 能動的視能矯正（訓練で使用する器械・家庭訓練） 12. 薬理的視能矯正（薬物療法）、型別治療 13. 弱視治療効果の判定・評価、ORTとインフォームドコンセントの関わり、症例検討 14. 症例検討 15. 単位認定試験 					
成績評価の方法	中間まとめ4割、単位認定試験（筆記）6割とする					
テキスト	視能学／第3版（文光堂），視能訓練学／第2版（医学書院）， 視能検査学／第2版（医学書院），理解を深めよう視力検査・屈折検査（金原出版）					
参考図書	視能学／増補版（文光堂），視能矯正学／改訂第3版（金原出版），小児の弱視と視機能発達（三輪書店），弱視・斜視診療のスタンダード（中山書店）					
備考・特色						

2024 年度 大分平松総合医療専門学校 視能訓練学科

基本情報	科目名	斜視各論 I		分野	専門	
	開講期	2年 前期	4単位 60時間		教育内容	視能訓練学
担当者	正 鮎美 (視能訓練士)			専任兼任の別	専任	
	実務教員	<input checked="" type="checkbox"/> 該当 <input type="checkbox"/> 非該当	(実務経験の概略)			
授業概要	斜視の基本的知識および治療法を理解する。斜視の各型については内斜視、外斜視、上下回旋斜視、交代性上斜位、A-V型斜視、微小斜視の病因と診断を理解する。麻痺性斜視の種類、原因と責任病巣、症候と診断、その他の眼球運動障害を伴う斜視の種類と病因、診断、眼性頭位異常の症候と診断を理解する。					
到達目標	① 内斜視・外斜視・上下斜視・回旋斜視・A-V型斜視・交代性上斜位・微小斜視・麻痺性斜視など各病態を説明できる。 ② 眼球運動障害の基本的知識を有し、各病態を説明できる。					
授業計画	1. 非麻痺性斜視 内斜視 2. 内斜視 3. 内斜視 4. 外斜視 5. 外斜視 6. AV型斜視 7. 微小斜視、交代性上斜位 8. まとめ 9. 核上性眼球運動異常 固視の異常 10. 眼振の定義・分類・種類 11. 生理的眼振・病的眼振 12. 病的眼振 13. 眼振の検査 14. 眼振の治療 15. 習熟度確認			16. 眼球運動の神経路 17. 水平衝動性眼球運動障害① 18. 水平衝動性眼球運動障害② 19. 垂直衝動性眼球運動障害① 20. 垂直衝動性眼球運動障害② 21. よせ運動の障害 22. 全眼球運動障害 23. まとめ 24. 核・核下性障害 25. 動眼神経麻痺 26. 外転神経麻痺 27. 滑車神経麻痺 28. 全外眼筋麻痺 29. まとめ 30. 単位認定試験		
成績評価の方法	筆記試験：習熟度確認 (A50点), 単位認定試験 (50点)					
テキスト	視能学／第3版 (文光堂), 視能訓練学／第2版 (医学書院) 神経眼科を学ぶ人のために／第3版 (医学書院)					
参考図書	ケースで学ぶ視能矯正臨床思考 (文光堂)					
備考・特色						